

報道関係者各位

特別天然記念物・幸せを運ぶ鳥

(公財) 埼玉県生態系保護協会

初記録 コウノトリ 3羽がやってきた！

～埼玉県が県民とともに自然再生に取り組んでいる見沼たんぼ・『芝川第一調節池』に飛来～

報道関係の皆様におかれましては、日頃より当協会の自然や生きものを守りとり戻す取組みに、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

野生の生きものの生息環境と治水の両方の機能併せ持つ“グリーンインフラ”として注目されている見沼たんぼ（さいたま市・川口市 1260ha）内の『芝川第一調節池（92ha）』で、コウノトリ 3羽の飛来・滞在が確認されましたので情報提供致します。

2020年9月24日、埼玉県鳥獣保護管理員の峰島敬治氏より『芝川第一調節池』にコウノトリが飛来しているとの情報を受け、当協会職員が現地におもむき、足環のカラーリング配置から、渡良瀬遊水地で7月末に巣立ちしたばかりの「わたる（オス）」、千葉県野田市のコウノトリの里から昨年7月に巣立ち、野外放鳥された「レイ（メス）」と「カズ（オス）」であると確認しました。数日前には千葉県野田市内の水田で確認されていましたが、今回、埼玉県内に3羽が同時に飛来・滞在しているのが確認されたのは、県内では初記録であると共に、見沼たんぼでも初記録となります。

『芝川第一調節池』は、見沼たんぼを流れる芝川の氾濫を抑制する治水施設ですが、自然豊かだった見沼の湿地再生を目標に「調節池型ビオトープ」として埼玉県が整備、県による草刈りや水位の工夫などの環境管理が行われているほか、県民参加によるクリーン作戦などの維持管理活動、動植物調査等が行われています。

その結果、チュウヒやハヤブサなどの猛禽類やサギ、ハクチョウなど多様な水鳥が訪れ、県の蝶であるミドリシジミが復活するなど見沼の自然や生きものが戻りつつあることが注目されていましたが、今回のコウノトリの飛来・滞在は、その最も大きな成果であると言えます。

首都圏域にありながら約92haという県内最大規模の人工的な自然再生湿地に、コウノトリが定着・繁殖することになれば、絶滅動物の復活事例として、世界的に評価される取組となります。『芝川第一調節池』の自然再生に向け、今後のさらなる生物多様性対策の推進が期待されます。

PS. 9月25日現在もコウノトリ3羽滞在中。

つきましては、貴社機関において、取材、ご報道いただけますと幸いです。

よろしくご依頼申し上げます。

【問い合わせ・写真データ提供先】



①



②

調節池の上を飛ぶコウノトリ（上）と
採餌後に浅瀬で休息する3羽（下）

公益財団法人
埼玉県生態系保護協会

〒330-0802 さいたま市大宮区宮町 1-103-1 YKビル 5F
TEL : 048-645-0570 FAX : 048-647-1500

※必要な写真の番号をご連絡いただければ、データをお送りいたします。



③



④



⑤



⑥ 芝川第一調節池の景観



⑦ 芝川第一調節池の景観



⑧ 芝川第一調節池の景観